

第7期浦幌町社会教育中期計画（案）

浦幌町教育委員会

第1章 第7期浦幌町社会教育中期計画の 策定にあたって

第1節 策定の意義

第2節 基本的な考え方

第3節 計画の期間

第1節 策定の意義

今日、国際化・情報化のさらなる進展や技術革新による生活の利便性向上など、社会が成熟する中で、教育を取り巻く環境は大きな変化を見せており、核家族化、少子化による家庭・地域の教育力の低下や、個人のモラルや規範意識の低下などが地域社会の課題として指摘されている。

そうした中において国は、将来に向かって新しい時代の教育の基本理念を明確にし、未来を切り拓く教育を実現するため、平成18年12月に教育基本法を改正、第3条に「生涯学習の理念」と、第13条に「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」を新たに規定している。

本町ではこれまで、6期にわたる社会教育中期計画を策定し、生涯学習社会の実現に向けた社会教育の推進を図ってきたが、社会情勢の目まぐるしい変遷に伴い町を取り巻く状況並びに町民意識が多様化・高度化していく中、柔軟かつ創造的な視点から計画を立案することが必要となり、関連する諸計画の趣旨を捉えつつ、浦幌町の歴史と風土に根ざした独自性のある教育の形を具現化するため、第7期浦幌町社会教育中期計画を策定する運びとなった。

第2節 基本的な考え方

社会の動きに連動し町の状況や町民意識も変わりゆく中、本町における生涯学習社会の実現に向けた取組を進めるには、社会教育の果たしうる役割を見つめ直し、行動していくためのより具体的かつ実践的な計画の立案が必要となる。

第7期計画は、平成22年度新たに策定・制定した「浦幌町第3期まちづくり計画」や「浦幌町教育の日」の理念を基本とし、これまでの反省評価で明らかとなった各領域・分野の現状と課題を捉え、生涯学習を推進していくという観点から、推進する活動領域、対象領域、各分野における取り組むべき方向性などを各専門部会において示し、さらに目標・施策などの関連性を生涯学習推進部会において体系化した。

第3節 計画の期間

平成23年度から平成27年度までの5ヵ年とし、社会教育委員の会議等で適宜計画の進捗状況を確認していく。

第2章 第7期浦幌町社会教育中期計画の内容

第1節 生涯学習の推進

第2節 社会教育

第3節 社会体育

第4節 芸術文化・文化財

生涯学習の推進

現 状

生涯学習とは、一人一人が自分の人生を楽しく豊かにするため、生涯におけるそれぞれの時期（幼児、青少年、成人、高齢者）で学習やスポーツ、芸術文化、趣味、レクリエーション、ボランティアなど様々な活動を継続的に行い、その中で得られた知識や経験が地域社会で生かされていくことの理念を指し、私たちが生活していく上でも非常に密接な考えとして捉えることができる。

今回の計画策定に際し実施した「生涯学習に関する住民の意識についての調査」の結果によると、広報誌等町が発信する情報は学習の情報を得る方法として十分に活用されていない状況や、大多数の人が生涯学習の考えに対し理解を示すも学習の成果を適切に生かすまでにはいきついていない状況、また、事業の開催情報を知りながらも参加しない、日常生活の制約上参加できない、会場までの移動又は距離の問題上参加しにくいという状況が浮き彫りとなった。学習活動に対する町民の意識を高めるための取組や特定の年代・地域に限らない町全体を総じた学習機会の充実が、今後いっそう求められる。

地域の教育力の低下が叫ばれている昨今、本町において平成22年度新たに浦幌町教育の日推進協議会（注1）が設置され、家庭・学校・地域の相互の連携を深めていく場として今後期待される。また、地域主導のもとで学校と結びついた組織をつくり「うらほろスタイル」（注2）の教育を推進するといった動きや、社会教育関係団体や地域住民の知識や学習成果を活用し学校を支援する取組が盛んに行われ、教育力の向上が図られてきている。

上浦幌・吉野・厚内・市街の4地区に点在する公民館は、「地域に即した社会活動を行う場」としてこれまで活用されてきたが、人口減少に伴う過疎化や少子高齢化といった社会構造の変容に伴い、利用回数や利用者数が減少傾向にある。地域の活力・人的資源を掘り起こす意味合いでも、公民館を拠点とした地域活動の再興が望まれるところであり、図書館・博物館といった学習を行う関連施設を含めた、より効率的な活用方法及び活動内容を模索していく必要がある。

課 題

- ・より効果的な情報発信
- ・継続した学び環境の整備
- ・学習成果を循環できる構造づくり
- ・関連施設の効果的・効率的な活用方法の検討

重点目標

生涯学習社会の実現に向けた学習環境の整備と人材ネットワークの構築

課題を解決するための施策・事業

施策	事業
(1) 情報発信の効果的方法の工夫	広報誌への社会教育専用ページの設置 年間行事カレンダーの作成検討 人材バンク制度の効果的・効率的な運用
(2) 継続した学びへの支援	町民を対象とした公開講座の継続実施 児童・生徒の段階的な学び環境の形成 町民のニーズに沿った学習機会の提供
(3) 学習成果の発揮の場づくり	学習の成果を適切に生かせる場づくり 町民の意識をより高めるための啓発活動 教育関係ボランティアの設置に向けた取組
(4) 関係機関等との連携強化	浦幌町教育の日推進協議会との連携協力 うらほろスタイル推進地域協議会への協力支援 社会教育関係団体への協力支援
(5) 人と空間を基調とした施設運営	公民館に気軽に入れる雰囲気づくり(集いの場) 地元の生徒を巻き込んだ事業展開 施設を介した生涯学習活動の連絡調整の場づくり
(6) ネットワーク体制の構築	施設間の情報共有と連携事業の推進 体育・文化の枠を超えた人的ネットワークづくり 異業種間の継続した交流の場づくり

(注1) 浦幌町教育の日推進協議会

将来を担う子ども達が、夢と希望にあふれ心豊かに「生きる力」を身につけられるよう地域全体で子ども達を守り育てるという意識を喚起し、家庭・学校・地域・関係機関などが一体となり、地域総ぐるみで力強く取組を進めるため制定した「浦幌町教育の日」の理念に立ち、具体的取組として進めていく上での課題と方策について協議するため立ち上げられた組織。

(注2) うらほろスタイル

子ども達が未来に向かって夢と希望を抱ける社会を目指すべく、地域が一体となった取組を行うため、町、町教育委員会、NPO日本のうらほろの各機関によって構成される「うらほろスタイル推進地域協議会」が立ち上げた教育の構想。

「地域への愛着を育む事業」「子どもの想い実現事業」「農村つながり体験事業」の3つの柱からなり、社会教育分野としては「農村つながり体験事業」の活動に協力、夏季少年リーダー養成講習会における民泊体験等で連携を図っている。

社会教育

家庭教育

現 状

現代における子育ての環境は、核家族化や少子化、地縁的つながりの衰退といった社会状況と共に構造が大きく変化してきており、全国的にも家庭教育力の低下が指摘されてきている中、親の学びや子どもの生活習慣の見直しなど具体的な行動が求められる。

本町においては、平成17年度策定の「浦幌町次世代育成支援行動計画」を踏まえつつ、幼児期においては子育て支援センターと連携した「子育て出前ミニ講座」を実施、少年期においては各小・中学校のPTA組織と連携した学習機会を提供するべく「家庭教育学級」の開設並びに「家庭教育講演会」を実施し、子育て環境の整備や子どもの健全育成に資する事業を行ってきた。

しかし、子育てへの支援体制やネットワークの形成など、関係機関との連携協力や組織的な取り組みが不十分であることから、今年度新たに制定した「浦幌町教育の日」を具体的な行動指針として位置づけ、基盤整備を進めていくことが重要となってくる。

課 題

- ・ネットワークづくり
- ・子育て支援体制の充実

重点目標 関係機関との連携、協力

課題を解決するための施策・事業

施策	事業
(1) 家庭教育に関する情報提供等の充実	家庭教育学級の開催 家庭教育講演会の開催 家庭教育に関する情報紙の発行 家族で参加できる事業の開催
(2) 親同士のネットワークの形成	親子ふれあい公演の開催 子育て出前ミニ講座の開催
(3) NPO・企業等との連携、協力	北海道家庭教育サポート企業等制度の普及・推進

少年教育

現 状

子どもを取り巻く社会環境が大きく変化する中、家庭の教育力の低下による子ども達の基本的な生活習慣の未定着や人間関係の希薄化による社会性の未定着などの課題が指摘されている。このような状況から、「早寝早起き朝ごはん」運動をはじめとした子どもの豊かな心を育むための取組が、全国的にも展開されている。

本町においては、「オーラポロひろば」、「うらほろ通楽(学)合宿」、浦幌町地域子ども会育成連絡協議会と連携した「少年リーダー養成講習会」、「浦幌町少年道外交流事業」などの事業を実施し子ども達の豊かな心を育む体験・交流活動の充実を図っている。また、北海道及び北海道教育委員会主催の「少年の主張」並びに「ジュニアリーダーコース」へ参加を推奨している。

しかし、一部の子どもには社会教育事業に参加したくてもできない状況もあり、時間的制約がある中でもより参加しやすい事業形態を模索していく必要がある。

また、平成23年度以降、小・中学校においては新学習指導要領の全面実施がなされ、今後、新たなニーズや課題が出てくることが予想される。これを学校と地域が結びつく機会と捉え、学校に積極的に関わっていく支援体制づくりを検討していくことが重要となってくる。

課 題

- ・開かれた学校
- ・リーダー養成
- ・世代間交流
- ・子どもの積極的参加

重点目標 学校支援体制の充実、学校・家庭・地域との連携、協力

課題を解決するための施策・事業

施策	事業
(1) 学校、子ども会との連携強化・支援	学校支援地域本部事業の推進 東部十勝4町地域子ども会交流会への参加奨励
(2) 少年リーダー・ジュニアリーダーの養成	少年道外交流事業の開催 少年リーダー養成事業の開催 少年の主張・ジュニアリーダーコースへの参加奨励
(3) 豊かな心を育む体験活動の充実	子ども居場所づくり事業の開催 うらほろ通楽(学)合宿の開催 各種体験教室の開催
(4) 子どもの読書活動の推進	子ども読書活動推進計画の策定

成人（青年）教育

現 状

社会構造のめまぐるしい変化に伴い、価値観の多様化や人間関係の希薄化を起因とした個人至上的な傾向が、とりわけ成人（青年）層において顕著に表れている。また、そうしたことが影響して、長年におよび築かれてきた集団組織の活動維持・継続が次第に困難となり、休会又は解散を余儀なくされてきている状況がある。

本町においては、成人が主体となり組織する社会教育関係団体として「女性団体連絡協議会」が継続し取組を進める一方、青年の主体組織である「連合青年団」は平成18年から休会している。組織活動での経験によって協調性やリーダー性が培われ、以後の社会活動において発揮されることを踏まえれば、活動の早期再開が望まれる。

生活上や職業上での制約から、成人（青年）が学習する機会は限られているのが実際であり、そうした諸課題を考慮しつつ成人（青年）の要望に応じて、学習活動を支援していくことが今後求められてくる。また、ライフサイクルにおいて成人（青年）期は最も長い期間であり、世代間を繋ぐ世代としての機能が衰退してきていることから、積極的な世代間の交流を図り、地域コミュニティを再活性化させることが重要となってくる。

課 題

- ・リーダー養成
- ・世代間交流
- ・支援体制の充実

重点目標 団体との連携、協力

課題を解決するための施策・事業

施策	事業
(1) 地域の核となる公民館活動の充実	公民館主催事業の継続的開催 各種講習会の開催 社会教育関係団体と連携した事業の開催 浦幌町生涯学習活動支援ボランティアバンクの充実 町文化祭、公民館まつりへの青年層の参加促進 社会教育関係団体との連携協力
(2) 交流機会の充実	異業種間・広域的な青年層の交流促進 成人式の開催

高齢者教育

現 状

経済発展に伴う生活水準の向上や医療技術の進歩などにより、日本人の平均寿命が延びるにつれて、高齢期といわれる期間も年々長くなっている。そうした状況において、高齢者には、知識や経験の伝承に加えて、地域づくりの担い手として積極的な関わりが求められている。

本町においては、地区毎に組織されている老人クラブをはじめ、教養を高める場として公民館単位で開設している高齢者学級（寿大学）など、自主的に活動できる基盤が整っている。しかし、健康面・環境面などの理由で参加困難な状況が一部にあることから、参加増に向けた支援体制づくりが求められてくる。

また、家庭・地域の教育力の低下が指摘されている中、失われつつある地域コミュニティの再生、とりわけ、青少年や子育て中の親との交流機会を築き直していくことや高齢者が培ってきた文化や知的財産を地域づくりに生かしていく取組が、地域の教育力の再生を図る上で重要となってくる。

さらに、よりよい高齢期を迎えるために必要な高齢期準備教育のあり方について検討していくことが、今後必要になってくると考えられる。

課 題

- ・世代間交流
- ・文化の伝承

重点目標 団体との連携、協力

課題を解決するための施策・事業

施策	事業
(1) 高齢者の生きがい創出支援	寿（高齢者）大学の開催 学習の成果を発表する機会の提供 公民館ボランティアの組織化
(2) 世代間交流の機会充実	世代間交流事業の開催 知恵や知識を伝える機会の充実
(3) 高齢期準備教育についての検討	年代及び職場環境に応じた高齢者準備教育に関する調査・検討

社会体育

現 状

本町では、児童・生徒数の減少によって少年団・部活動が減り選択肢が制限されている状況や、人口減少と高齢化によって単位スポーツ団体の組織率低下や指導者不足が起きており、町民スポーツ活動の停滞が懸念されている。

一方で、規範意識の低下など現代社会の抱える諸問題に照らし、スポーツを通して培われる礼儀作法や仲間意識が人格形成に大きな役割を果たすため、子どものみならず親子でスポーツに親しむ活動機会の充実が今後求められてきている。

施設については、町財政の健全化に則した施策が進められる中で、開館期間の縮減や休館措置をとったものがある。合宿施設として活用されてきた経過をもつ農村環境改善センターをはじめとして、他の施設についても、今後の施設の利活用について方向性を探る必要がある。

生涯スポーツの振興については、競技者の固定化が見られ、ニュースポーツの開発として平成10年より開始した「フロアカーリング」の普及が見られるも、サークル等組織化までは至っていない。また、他の自治体を例にした幅広い世代で楽しめるニュースポーツの開発も続けていく必要がある。

課 題

- ・ 体育関係施設の有効活用
- ・ 親子で取り組むスポーツ活動
- ・ 少年団の育成支援
- ・ 子ども達のサポート方法
- ・ 指導者の発掘、育成
- ・ スポーツ関係イベントの開催
- ・ ニュースポーツの開発、普及

重点目標

- ・ 多くの町民がスポーツに親しむための環境整備と指導人材の育成・活用
- ・ スポーツ人口の増加に向けたイベント、ニュースポーツの有効活用

課題を解決するための施策・事業

施策	事業
(1) 施設の有効活用	施設の利用期間延長に対する調査・研究 総合型地域スポーツクラブ制度の調査・研究 町内に点在する遊休施設の活用
(2) 少年団育成の強化・活動の継続化	教室等体験機会の拡充 近隣自治体との交流・連携
(3) 指導者の開発・育成支援	登録制指導者一覧表等の冊子作成・広域的周知 指導者育成講習会の開催 スポーツ愛好会組織のサークル化への支援
(4) スポーツ情報の提供	情報発信の工夫・充実（町広報誌、ホームページ） 新聞折り込みによる事業等周知
(5) スポーツイベントの機会、 ニュースポーツの普及	継続的な鑑賞型スポーツイベントの開催 親子で参加できるスポーツイベントの開催 ニュースポーツの新規開発 出前講座の開催

(注1) ニュースポーツ

体力、技術、性別、年齢に左右されず、だれもが手軽に楽しめる比較的新しいスポーツ種目の総称。ミニバレー、パークゴルフ、ゲートボールなどがある。

芸術文化・文化財

現 状

本町における芸術文化の振興は、昭和44年発足の文化協会（加盟36団体）を中心とした各種サークルの主体的活動のもとで進められてきたが、少子高齢化をはじめとした社会構造の変化から会員数の減少傾向、特に伝統文化活動団体の衰退が顕著であり、活動の維持が困難となって単位組織の解散あるいは休会を余議なくされている状況が見られる。

そうした中であって、フラダンスサークルの結成・新規加入は明るい兆しであり、今後も継続した青年層への働きかけが求められている。

文化的な事業として、毎年開催の町文化祭のほか、幼児・小中学生を対象とした芸術鑑賞事業と町民文芸誌事業を隔年で実施しており、全町民を対象とした事業は不定期ながら行っている。町財政との兼ね合いもあるが、町民が地域文化に関わっていく流れを作り出す上では、他市町村や関係団体との連携を踏まえつつ、あらゆる方法を模索としていき、多種多様な芸術文化に触れる機会を創出していくことが求められる。

施設面では、文化活動の拠点として公民館、教育文化センターが設置されているが、より効率的・効果的な活用が必要となってくる。

文化財に関しては、周知が浸透せず、町民の認知は低い状況であるが、小・中学校で地域を素材とした総合的な学習の実施に伴い、町民の関心は徐々に高まってきている。

今後も、計画的に文化財の整備を進めるとともに、積極的に文化財の情報発信を行う必要がある。

課 題

- ・地域文化に対する町民の関心の高揚
- ・文化を次世代に継承するための手立て
- ・近隣町村を含めた文化団体間の交流機会の拡充
- ・サークル団体活動、人材育成の活性化
- ・芸術文化の鑑賞機会の拡充
- ・図書を介した子育て世代の関わり合い

重点目標

- ・世代を問わず触れることのできる、身近な文化活動の展開と組織活動への支援
- ・浦幌のことをもっとよく知るための、積極的な文化活動の情報発信

課題を解決するための施策・事業

施策	事業
(1) 文化情報の積極的な発信	幅広い年代が親しめる情報紙の作成・配布 マップを活用した文化財の周知徹底 町ホームページを活用した周知 文化財周知標識等の計画的改修
(2) 次世代に継承するための支援	子ども、子育て世代が関わりやすい体験事業の実施 学校・地域の連携による伝統芸能の組織的取り組み 歴史・知的財産を記録・保存する組織づくり
(3) 地域の文化活動の相互交流	サークル団体間の連携拡充 近隣町村との定期的な交流機会の設定
(4) サークル団体活動、人材育成の活発化	居場所づくり事業、体験講座等を通じた人材発掘 公民館主催事業と連携した学習機会の提供
(5) 芸術文化の鑑賞機会の拡充	近隣町村と連携した鑑賞機会の設定 小規模コンサートの継続実施
(6) 図書を介した子育て世代の関わり合い	関係機関と連携したブックスタートの更なる推進 お話し室の有効活用 読書の普及啓発活動

(注1) ブックスタート

地域の保健センターなどで行われる乳幼児健診の機会に、すべての赤ちゃんと保護者にメッセージを伝えながら絵本を手渡す運動。